

# 被災地派遣レポート〈第31回〉

港湾局 東京港管理事務所 荻野 美紗さん

## ■宮城県石巻市へ

私は東日本大震災に伴う被災地派遣隊の一員として、8月16日から8月23日のうち7日間、宮城県石巻市にて市役所の事務補助を行いました。このレポートでは、「派遣業務の概要（窓口及び外回り(巡回調査)業務）」、「被災地の現状と課題」の2点について、ご報告させていただきます。

## ■業務の概要

現地では、石巻市役所の税務課職員の指導のもと、税務課の事務補助を担当しました。

私達が担当したのは、「り災判定再調査」及び「償却資産の減免」申請の受け付け事務並びに来年度の固定資産税課税のための調査及びデータ入力の読み上げ確認作業です。

派遣中は窓口事務とデータ確認作業を6日間、巡回調査を1日行いました。いずれの事務作業においても、お忙しい中、職員の方が丁寧に教えてくださって余裕を持って窓口業務に従事することができました。

## ■被災地の現状と課題

高速バスで石巻に通勤をしていましたが、高速バスの窓から町の様子をみてもそれほど被害が甚大だとは思いませんでした。

しかし、外回りで現場を見たとき改めて災害の規模の大きさを感じました。各所の瓦礫の撤去は進んだとはいえ、これから処理されるはずの瓦礫の集積場の山は非常に衝撃的でした（右の写真）。

窓口では主に再調査の申請に来る方の手続きの手伝いをしました。窓口対応をされていてほとんどの住民の方が落ち着いており、事務処理に対し大声で苦情を言う方もめったにいませんでした。ただ、まだ仕事に就けないであるとか、就いていてもあまり給与が出ないなど、金銭面での不安が見られ、何とかしてあげたいとは思いましたが、私個人の力では何もできないことにもどかしさを感じました。

さらに、地域の結びつきが強いためか、隣の家が罹災判定を知っているために隣の家は全壊なのに私の家はなぜ大規模半壊なのかというような相談が多々ありました。それに対しては、市の職員の方が判定の基準を詳細に説明して他の家との判定結果の違いを納得してもらっていました。改めて住民への的確な情報提供・説明スキルの重要性を認識しました。

写真は23日（最終日）に外回りをした際に撮影したものです。私は全壊地区の荻浜おぎのはまに行きました。



左の写真は冠水していて海面がすぐそこまで来ています。地盤沈下が起こったためここまで海面がきているそうです。

私が調査した波打ち際の地区には、土台から崩れ、屋根が全て落ちているような家が多く見受けられました。また、流出していない家やクレーン等で撤去されている家もあり、津波の被害か地震の被害か一見ただけでは判別できませんでした。